共謀罪への「声」

共謀罪について朝日新聞「声」欄に寄せられた読者の声の一部を紹介したい。まず、6 月 15 日の作家・赤川次郎さんの声から。

日本にも多くのファンを持つウィーン・フィルハーモニー管弦楽団だが、ナチスの時代、ユダヤ系の楽団員を追放し、中には強制収容所で殺された団員もいた。この「負の歴史」が、今年広く展示され、戦後生まれのさらに後の世代の団員たちが、同じ過ちをくり返さないために過去と向き合おうとしている。

ところが、日本では、すでに歴史となった過去の侵略や虐殺すら否定しようとする人々がいる。軍国主義の精神そのものだった「教育勅語」さえ評価するとは、もはや海外との歴史認識の差のレベルではない。

その人々が今手にしようとしている最悪の武器が、戦前の治安維持法に重なる「共謀罪」法である。これがなければ五輪が開けない？ならば五輪を中止すればよい。たったひと月ほどの「運動会」のために、国の行方を危うくする法律を作るとは愚かの極みだ。五輪は終わっても法律は残るのだ。法律に賛成の議員は、自分が後の世代に災いをもたらそうとしていることを自覚しているのか。目先の目的のため憲法を投げ捨てて恥じない安倍政治は、日本を再び世界から孤立させるだろう。

安倍さん、あなたが「改憲」を口にするのは 100 年早い。

写真は 16 日の風刺漫画。「かまわん、ぶっ飛ばせ！」と。

その日は 3 本。「共謀罪」手中の政府監視しよう、「共謀罪」採決の夜 ＴＶに失望、「共謀罪」誰のための法律なのか。３つめは 17 歳の高校生。－　私は今、ものすごい恐怖を抱いている。「共謀罪」によって、広い範囲で怪しい人を拘束できるようになる。自分の意見をあまり言えなくなり、政府の言いなりになりかねない。そんな社会はかなり生きづらくなってしまう。

17 日の 39 歳アルバイトの声にも注目。－　（強行可決した）参議院で、野党議員に対して、「共謀罪で逮捕するぞ！」とヤジが飛び、周囲の議員が笑い声をあげる様子が、テレビのニュース番組で放映されていました。わたしは、「共謀罪」法案の妥当性よりも、法案を採決した国会議員に対して、怒りと恐怖を感じました。国会内で国会議員が軽々しく「逮捕するぞ！」とヤジを飛ばし、笑っているのです。この方々は、わたしたちの代表者なのでしょうか。政治の世界では、最終的には国会議員を選んだ国民の責任とよく言われます。その国の政治のレベルは有権者のレベルとも言われます。ならば、国民がその責任を果たせるように、ヤジを飛ばした議員と、笑い声をあげていた議員を明らかにして欲しいです。それを、次回の選挙に国民の一人として生かしたいです。

（2017 年 6 月 20 日）